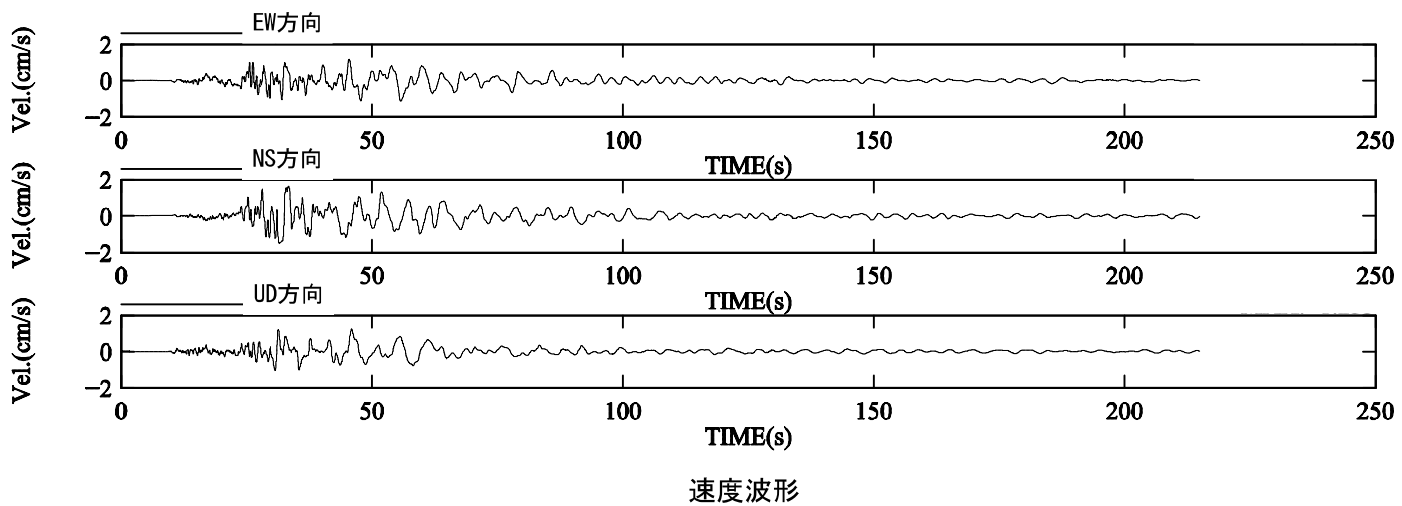
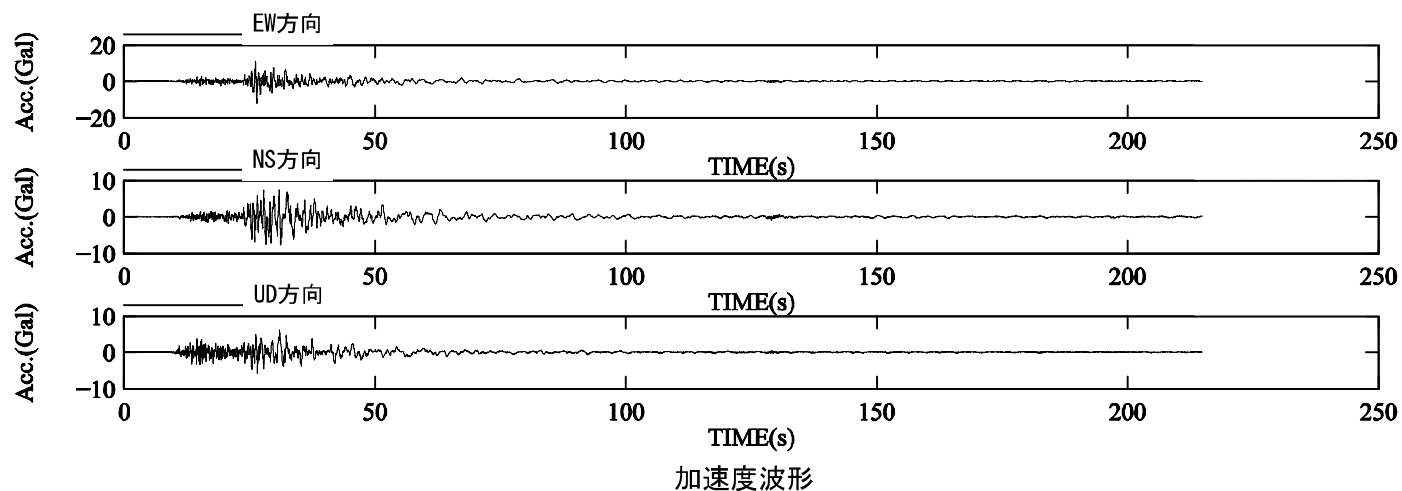
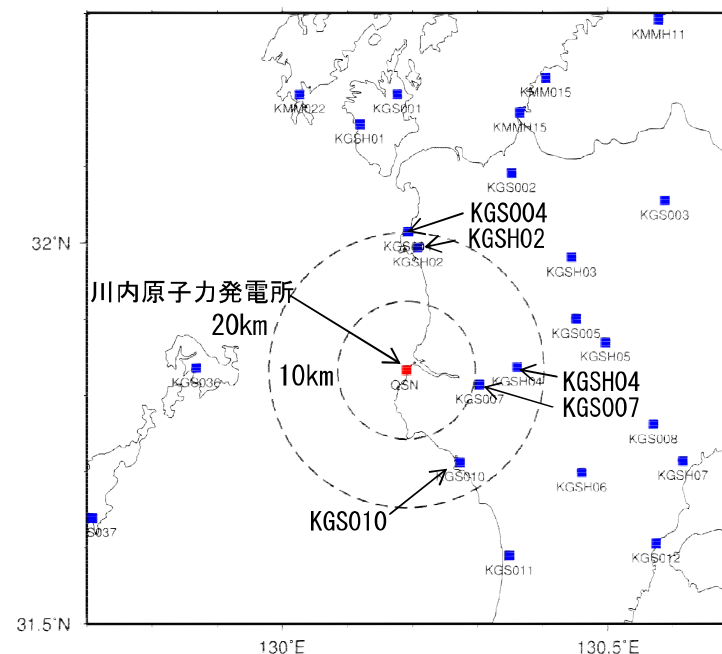


2016年熊本地震（本震）の観測記録（川内原子力発電所）



敷地周辺観測点との応答スペクトルの比較

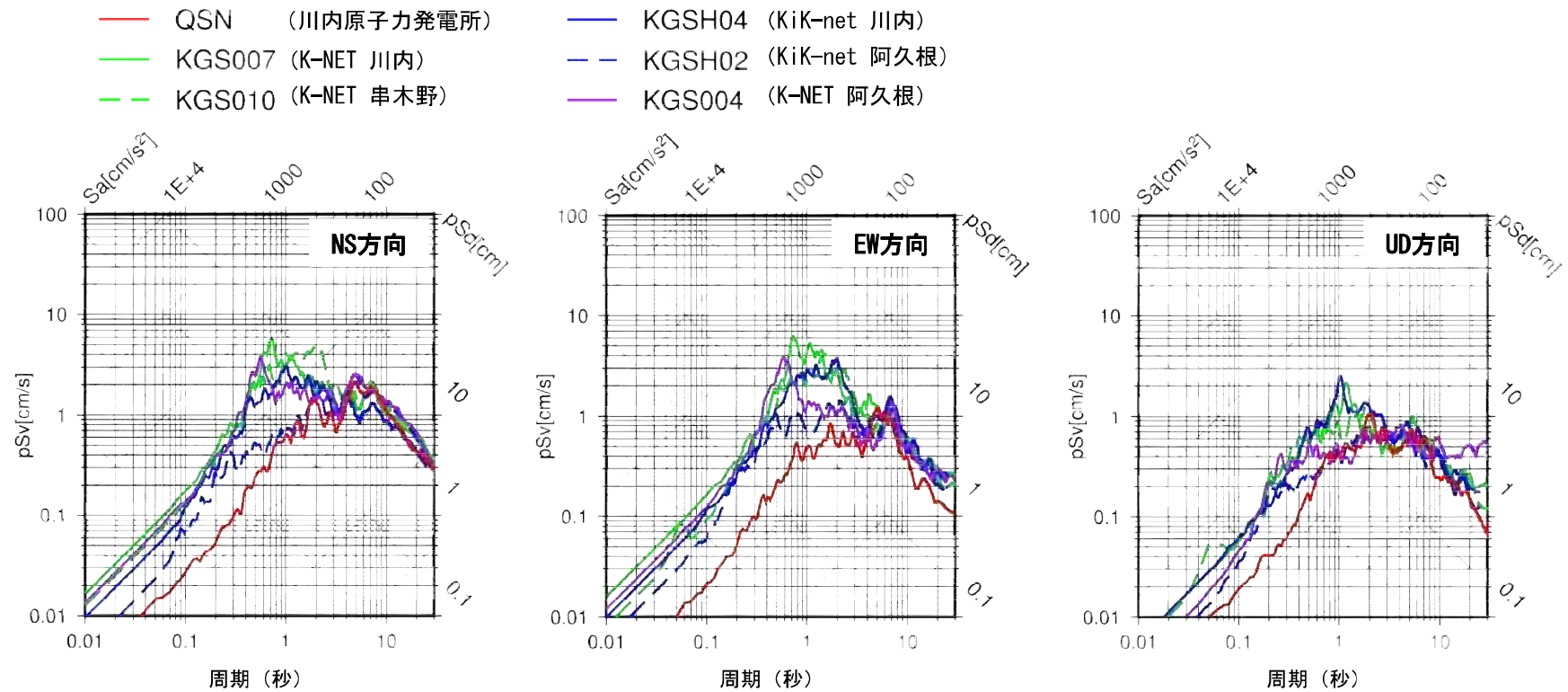
- 前頁までの川内原子力発電所の敷地地盤の観測記録の加速度波形・速度波形を確認した結果、長周期の揺れの成分が主に後続波から確認された。
- ここでは、敷地周辺の強震観測点(防災科学技術研究所K-NET・KiK-net)における3地震の観測記録から応答スペクトルを求め、長周期の揺れの大きさを比較した。
- 周辺観測点との比較の結果、川内原子力発電所の敷地地盤のみで長周期の応答が卓越する傾向にはなく、長周期の揺れの大きさは周辺観測点とおおむね同等である。(7頁～9頁)
- 3地震による揺れはいずれも震源距離100km以上の遠方から到来しており、震源または伝播経路で生成された長周期の波と考えられる。
- 以上より、観測事実として、川内原子力発電所の敷地地盤において、長周期の揺れが増幅する振動特性は確認されない。



比較対象とした敷地周辺の強震観測点

	観測点コード	観測点名
1	KGS004	K-NET 阿久根
2	KGS007	K-NET 川内
3	KGS010	K-NET 串木野
4	KGSH02	KiK-net 阿久根
5	KGSH04	KiK-net 川内

2005年福岡県西方沖地震の観測記録（応答スペクトルの比較）



※プラントノースの方位にあわせて表示